34号 川のさざやき

2006．1．1発行　不老川流域川づくり市民の会　代表　相馬和彦
連絡先　℡04-2965-1741　E-ﾒｰﾙ hiko_soma@yahoo.co.jp

Ｈ１６年度の工事を終えて間もない置き石が、激流に洗われ崩れている

不老川改修工事に思うこと

昨年は我々市民団体と行政の距離が画期的に縮まった年であったように思う。不老川の改修や新河岸川水系全体の工事について、県と流域住民との懇談会が何回か開催されたが、こういうことは今までなかったことであり、1997年に改正された河川法の精神が、8年を経過してようやく現実に生かされるようになった。とは言うものの、昨年の県との懇談について、十分な満足は必ずしも得られなかったという思いが強い。

我々が述べた要望について「それは法令に反するので出来ない」とか、「あなた方の要望通りにして、事故が起きたら誰が責任をとるのか」と言われて、自然環境に配慮した川づくりはこんな杓子定規のことではないと思いつつも、すごすごと引き下がらざるを得なかったことが何回かあった。市民サイドの河川の専門家が常に我々と一緒にいてくれるわけではないので、こういうことはこれからも屡々起こりうるように思う。

河川法改正の主旨を本当に生かす為には市民グループもそれなりの勉強をし、今年は悔いのない一年にしたいと思っている。　小黒記

クサギ

白い花は香りよいが、葉と枝に強い臭気がある。晩秋の山王塚で紫青色に紅色のがくの果実が目を引いた。

私たちの声が反映されたか

進行中の不老川河川工事について

平成９年の河川法改正で、河川工事には市民参加が前提になり、不老川では漸く１８年度工事分から市民の意見を聞く事になった。この工事は山田橋(川越・所沢線)から上流１．３ｋｍ区間で行われる。平成１７年６月２３日に説明会（流域４市の河川と環境担当者及び三つの市民団体が参加）が開かれ県の設計案が提示された。川越県土事務所から“改善案があれば７月１日まで提案して欲しい”との説明があったので、“この区間は畑地帯だからこの風景に合った川にして欲しい”と８項目に纏めた提案書を提出した。しかし私たちは河川工事については全くの素人で、提案に自信を持てない部分もあったので、専門家をお招きして勉強会を行った。その結果、私達の提案はほぼ正しかった事が裏付けられた。（勉強会の概要は川のささやき３３号に掲載した）

１８年度工事大幅な設計変更

１０月１８日に設計変更の説明が行われたが、提案した内容はほぼ採用され、残った検討課題は更に要望書として提出した。

当初、流量確保を重点に河道だけを見た設計だったが、河川用地全体を見る考えに改められ、設計の基本姿勢が変わった事を示しており、又親水施設についても大幅に変更されていた。

その一例を下図に示すと、右岸にあった親水施設を左岸に変更（この部分は左岸側に蛇行している）し、テラス部分は石張りやインターロッキング舗装の予定だったが草地に変更され、更には防護柵も付けない事になっていた。

従来の親水施設は広い階段や四阿を建てたり、所謂ハコモノを設置する事だったが、川水がきれいになり魚影が見られるようになれば、自然に子供達が水遊びをするようになると思う。

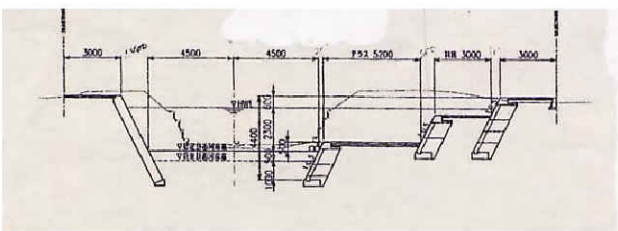
又、不老川の中でも特に良い景観と思われるので当会のホームページの表紙の写真とした所（石橋の下流 200m）がある。左側に大きな“オシドリ榎”があり、対岸には雑木林と旧河川が蛇行している場所で自然な景観が残っている。ここを、榎は切らずに残し、対岸と一体となった工事を行うよう提案をしているが結論には至っていない。

その他にも歴史的遺産として残したい連続した橋や、ワンドの設置等、未解決の問題が残っているので、今後とも交渉を続ける予定である。

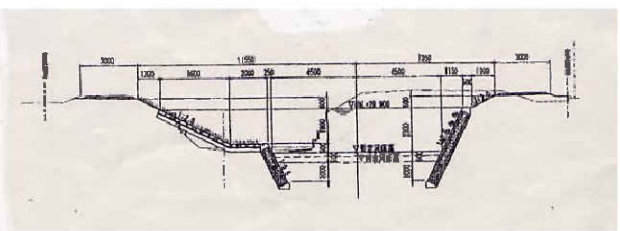
尚、この工事は平成 18 年 11 月から行われる予定である。

標準断面図

計画



計画変更



１７年度工事は

山田橋から下流今福掘合流点付近までの約１．６ｋｍが予定されており、すでに着工している。６月２３日の説明会では、設計図が完成しているので変更は出来ないとの事であった。

したがって具体的な工事内容は不明であるが、旧河川敷が広く残っている所があり、この活用には興味のあるところである。

１６年度工事は

今福掘付近から下流７００ｍ区間で行われたが、二つの問題点を残した。

イ　久保川合流点に設置した魚道は勿体ない。

ロ　右岸に管理用斜路を設置し大石で親水施設を作ったが、この大石が流され始めている。

魚が遡上出来るように落差工を取り除いたので多くの魚が上るようになったが、逆に流れが急になり護岸も強固なものになるのであれば、魚道付き落差工を設置する事も考慮すべきと思う。

久保川合流点の魚道

今後の課題

不老川の改修工事完了区間は全体の１０％程度であり、床上浸水対策河川事業として、５年間で集中的に行われるようであるが、浸水対策だから環境配慮は不要という事には成るまい。落差工の改善に伴い魚も多く遡上するようになったが、その魚の隠れ家も必要であろう。

今後とも、流域市民として積極的に提案していくことが大切であり、そのためには市民意見反映のための組織づくりや市民としての知識の蓄積を計り、未来の子供達に恥じない不老川にするようお互いに努力しなければなるまい。

19 年度工事は

去る 12 月 16 日、その説明会が狭山市の不老川流域の 4 つの自治会長も参加して行われた。この工事は権現橋付近から下流 1,600ｋｍの直線区間で行われる予定であるが、川幅を約 5～7m広げ、管理道路や防護柵も設置されるとの説明であった。

活発な協議が行われたが、改善案を平成 18 年 1 月 15 日までに提出することになった。

（相馬）

山王塚市民緑地に市民管理協定制度を適用

山王小学校の西側に位置する山王塚市民緑地の雑木林の中は、かつてゴミなどが散らかり、時には自転車やオートバイなどが入り、散策路や林床はかなり荒れていました。この市民緑地は不老川とこかわに隣接しているため、川と一体となった緑地の保全が必要と考え、３年ほど前から私たち不老川流域川づくり市民の会で散策路の整備やゴミ拾いなどをして手入れをしてきました

この事でこの度、狭山市が当会に対し市民管理協定制度の活用を県に対し推薦されました。市民管理協定制度は、地権者と市および市民団体が地域ぐるみで緑地を保全していくために創設されたもので、平成１７年１０月からスタートした制度です。埼玉県からの説明を受け、12 月には当会と地権者および狭山市の３者で市民管理協定制度の契約を結びました。今後この市民緑地を保全することで埼玉県から管理費用が補助されることになります。将来的には地域の人達にも呼びかけ、近隣地域に引き継いでもらう事で緑の保全が点から面に広がることを期待しています。

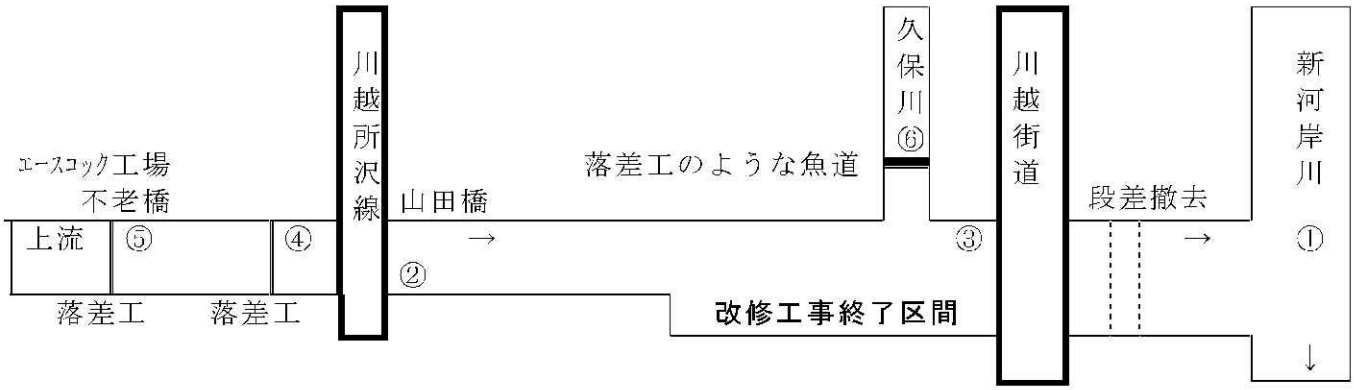
小川泰男

河川改修で魚影の変化は？

不老川魚類調査

2005 年 11 月 3 日、不老川川越区間で、不老川流域川づくり市民の会・新河岸川水系水環境連絡会魚類調査ＰＪ合同の魚類調査を行いました。同区間で行った前回調査（2003 年 4 月 26 日結果）と、照らし合わせながら、河川環境の変化について報告を行います。

調査ポイントは下図の①～⑥で、魚類の生息状況は、表のとおりです。



期　日		2003 年 4 月 26 日	2005 年 11 月 3 日	調査メンバー
新河岸川合流	①	マルタウグイ 46ｃｍ オイカワ４、メダカ５ ヨシノボリ１、ウキゴリ１、タモロコ１、コイ		2003 年は小林のみ。 2005 年は、斉上、伊藤、佐藤、 桜井、湯沢、小林（以上新河岸川水系水環境連絡会）、相馬（不老川流域川づくり市民の会）小黒（所沢源流の会）西澤（新河岸川流域川づくり連絡会）
不老川	②	魚影なし	ギンブナ９、モツゴ７ ドジョウ５、タモロコ２ コイ１、	
	③	魚影なし	魚影なし	
	④		ザリガニの残骸	
	⑤	調査せず	ドジョウ６、ザリガニ３７	
久保川最下流	⑥	ドジョウ１	ドジョウ１、ザリガニ１ オヤマトンボのヤゴ１	

幾つかの結論

１、不老川の改修工事により、下流の落差工が撤去され、新河岸川で生息していたギンブナ、タモロコ、オイカワなどが、不老川を遡上し始めている。①の魚が②へ遡上した。

２、山田橋付近の落差工などで、②の魚が⑤へ遡上できない。⑤のドジョウは、上流からの流下が考えられる。

３、久保川と不老川の合流点は、元々段差があったが、今回の不老川の改修工事で、段差が増した。そのため魚が遡上できるように、魚道を設置したが、魚の遡上が確認できなかった。

４、魚類の生息域の拡大には、水質よりも河川構造が重要ではないか。不老川②地点の水質はすこぶる悪く、ミズワタがひどいが、魚影が濃い。それに対し⑥地点は、水に透明度があり、水質は悪くなさそうでも、魚影が薄い。落差工が障害になっている。

５、②付近は水深が浅い。魚たちは、石やゴミの下、土管の中など、水鳥から逃れるために、必至に隠れ場所を探している。これは改修工事後間もないためか、水質のせいか水草がないことが原因。

６、④の岸辺にザリガニの残骸が散見される。カワウ・サギなどに食べられた模様。ザリガニの多さから、水生生物の生育には向いた水質のようだ。

７、不老川の改修工事の進捗により、下流の魚たちの生息域が拡大する可能性がある。水深に変化、流速にも変化のある設計を期待したい。　　（小林一巳）

魚類調査が終わったあとに、近所に住む保育園の先生が、「めずらしいことをしていますね、次回はうちの園児たちに、見せてあげたいから、ぜひ連絡してくださいませんか？」とお声がかかり約束をし、一緒に記念撮影！

子どもから大人まで川好きが集まった！！

新河岸川水系　「身近な川の一斉調査２００５」報告会＆シンポジウム

１１月２７日（日）朝霞市リサイクルプラザで、今年６月５日に行われた新河岸川水系身近な川の一斉調査の報告会が、今年２年目の全国一斉調査の報告も兼ねて開かれました。

午前には、この調査に参加した生徒の発表が行われました。中学一年生の幼い報告から、魚とりが大好きな高校生、一斉調査をきっかけに定点観測を始めた高校生の報告などに対して場内から質問が多くよせられ、終始和やかでした。

午後の調査報告の中では大学生が「調査項目別ランキング」つくりで参加しています。身近な川に関心を寄せる世代が子どもから大人まで広がり、将来に活動を引き継ぐ展望がみえたように感じました。

今年は、測定日前日の降水量の多さが調査結果に、大きく影響を及ぼしています。一般的に川の水は濁り、透視度が下がり、電気伝導度は低くなっています。わが不老川は、「調査項目別ランキング」によると、ＣＯＤがワースト２位と相変わらず良い状態ではありませんが、懸案の山田橋近辺の状態は、カット野菜工場が休んでいたとしか思えない数値でした。

午後の宮武晃司氏（国土交通省・大臣官房技術調査課　工事監視官）の講演「都市災害・中小河川の諸問題」では、治水対策に環境に配慮した市民の意見をどう組み込めるか、希望を見いだせる話が聞けました。地域住民の意識化（イメージを持つ）に、私たちの活動が役に立てるか問われるところかもしれません。

２００６年の身近な水の全国一斉調査は６月４日です。　　（村手）

第3回”荒川クリーンエイドin不老川

今年も元気に終わったよ　　10月30日

荒川クリーンエイドは荒川上流から河口まで全52会場で繰り広げられる、ゴミ拾いと河川環境を考えるイベントです。当会の主催する不老川入曽会場は狭山市入間公民館と山王橋の 2 ヶ所から、新入曽橋までのコースを歩きました。

平野の森子どもエコクラブの子ども達15人は2度目の参加です。子ども達の目に今年の不老川はどう映ったでしょうか。

ゴミ拾いをして、カンなどの他にくつのゴミもあったので、びっくりしました。今年は土手のゴミが少なかったし、川も前よりきれいになっていたので、このままどんどんきれいになれば良いと思いました。　（6年生）

確かに今年のゴミは少なく、集めたゴミを皆で計測した時も去年の半分以下でした。

特に多かったのは
ペットボトル　レジ袋　缶　ビン　紙
くず　プラスチックです。
それ以外は少なかった。　（6年生）

子ども達の好奇心は、川の周りの自然環境も観察していました。

出会った生き物たちは？
　アシナガバチ　カミキリ　ゴマダラチョウ　カモ　コイ
見かけた植物は？
　センダングサ　ホオズキ　スズミウリ　カラスウリ　柿

口ぐちに自分の見つけたものを教えてくれます。

今日の不老川は沢山の発見の場だったようですね。

今日、荒川クリーンエイドに参加して、川ぞいにゴミが多く落ちていて、ちょっとショックでした。理由は、川ぞいにゴミをすてたらバレないだろうと、すてた人は思っただろうと思ったからです。また来年も参加したいです。
（6年生）

ゴミ拾いの後は、みんなで楽しく芋ほりと豚汁パーティー、次回の参加を約束して散会しました。
（丸橋）

皆がんばったね！ハイッ！チーズ

少ないとはいえ、蛇かごにしがみついている
ゴミがかなりあった。

じゃまになったら取り除く？　*モッタイナイですよ*

越市北公民館で 11 月 12 日（土）第５回北公民館“かんきょう祭り“が開催された。

ノーベル平和賞受賞者ワンガリ・マータイさんが提唱するＭＯＴＴＡＩＮＡＩ（もったいない）をメインテーマに、環境落語「京都議定書」「日本一のきれいな道」・コーラス・ 楽器演奏・展示部門は、マータイさんコーナー・もったいない川柳・環境写真等があり私は不老川に関する写真２点を、カラーコピーでＡ３に拡大して出品した。

18 年度河川改修工事予定地のエースコック脇の不老橋から 1,3km の石橋区間の図面を貼り、写真の下にコメントを入れ「もったいない　不要になったらこわします」14 本の手すりのついた古い橋の写真です。

「じゃまになったら取り除きます。“オシドリ榎（エノキ)”、土手の水際に根をはった郷土を見つめてきた２本の古い榎です。童謡詩人・金子みすゞさんの「このみちをゆこうよ」の詩の一文に“大きな森の中のひとりぼっちの榎”が登場する。不老川の榎はその郷土に溶けこんだ*道しるべ*的な存在ではないでしょうか。　　（高木）

里山の自然･･･手入れはまかせて

「ホタルの生息する里山づくりの会」主催の草刈りが 10 月 30 日に行われました。入間市加治丘陵の東端、近くにはカタクリの自生地がある北向きの地です。住宅地に隣接し、山すその細い流れが集まって湿地を作っています。地元の自治会（入間市東金子７区）大森の池まつり実行委員４人、当会員４人など総勢２０人ぐらいの参加者で、肩掛け式刈払い機３～４台、草刈鎌、ノコギリなどを使って足元がぬかるむ中、草刈や実生の桑の木、大きくなりすぎた梅の木などの撤去や枝落としがすすんでいきました。

市が地主さんから借り受けて管理していたのですが、この地域の人たちが会を作って「市の協力の下、保全と管理をしていきたい」と今年の７月に市長要望書を提出して実現そうです。地元の人たちが立ち上がり、少し手を入れていけば里山の自然は豊かになっていくものです。すがすがしい気分になり来年も参加したいなと帰路につきました。　　（高松）

加

不老川市民の会 ホームページ

市民の会が 12 月ホームページを立ち上げました。会報「川のささやき」に次ぐ広報活動です「ささやき」より、よりスピーディに不老川の様子や、会の活動をお知らせできるかと思います。

見た目に素敵なページを目指すのではなく 会員一人一人が会の活動を通して思った事をページにする、みんなで作るページをと思っています。

ページを通じて皆さんとふれあう機会が多くなる事を期待しています。まだ充実していませんが

http://furougawa.mods.jp/

にアクセスをお待ちしています

ご意見ご希望は furougawa@lh.mods.jp まで.

つくって 食べてトーキング

茶饅頭と不老川（仮題）

第1部　狭山茶を使った手作り茶饅頭教室

第2部　上流から下流まで、映像で、不老川流域を紹介、茶饅頭とお茶で川づくり、まちづくりをトーキングしよう

日 時　3 月 7 日(火) 1 時 30 分～4 時 30 分

会 場　狭山市入間公民館

主催　狭山市入間公民館

不老川流域川づくり市民の会

川づくりに参加しませんか

定例会：毎月第３土曜日１３：３０～
年会費：1,000円詳細は下記世話人まで
入間市：相馬０４－２９６５－１７４１
狭山市：丸橋０４－２９５９－３８３１
所沢市：高松０４－２９４８－５８１５
川越市：高木０４９２－４９－９８２８

流 域 情 報

◇ 川水が少なくなる渇水期になり、１７年度工事が始まりました。大森調節池と流入口付近の浚渫工事と関越道付近、1600m区間の改修工事です。ぜひ、工事状況をご覧下さい。

◇ １０月２９日、新河岸川流域川づくり連絡会が黒目川見学を、流域の市民団体が参加して行なった。源流が小平霊園の中にあったり、湧水の豊富な川で、市民の要望を受けて自然のままの護岸を残したりと自然豊かな川であった。

◇ １１月２６日、さやま環境ウォーク 2005
[堀兼・上赤坂の森と里めぐり さやま再発見]
さやま環境市民ネットワークの主催で行われた250 名の参加があり、約８キロを歩き、狭山再発見！いい汗をかいた。

◇ １１月２７日、入間環境ウォーキングが行われた。不老川の岸辺を歩きながら、紅葉した雑木林の中を通ったりと、散策を楽しんだ。

◇ １２月１３日入間市藤沢東小学校５年生の不老川の環境学習発表会があった。同じ頃川越市福原小学校でも発表会があり、同校は来年２月２５日、朝霞市で行われる発表会（新河岸川流域川づくり連絡会主催）でも発表する事になった。